

## 「アマドコロという野草(1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今の時期、北軽井沢の山荘庭は、草の丈が一番伸びる。毎週草刈が必要なのだが、シジュウカラが営巣しているので、草刈機が使えない。あまり大きな音をたてると、親鳥が子育てを放棄してしまうのだ。巣立ちの予想日は6月10日頃なので、それまでは山野草も雑草も伸び放題だ。一番多いのがオオバコ、それから伸びて伸びて仕方がないのが、イタドリだ。シジュウカラが巣立ったら、刈らなくてはいけない。



「初夏の北軽井沢山荘庭」 5月31日撮影



裏庭もご覧の通り。ほとんどは平地では3月から4月に見られる雑草だ。うしかし、この中にいくつか美しい花を咲かせる野草もある。

たとえば「シロバナエンレイソウ」・・・この花は毎年同じ場所に出てきて、3枚の大きな葉の真ん中に、白い花を咲かせる不思議な形の野草だ。



「シロバナエンレイソウ」 林床にひっそりと咲く

さまざまな山野草の中で、毎年順調に増え続けているのが「アマドコロ *Polygonatum odoratum*」という野草だ。アマドコロは漢字では「甘野老」と書くという。茎や根が食用になり、甘みがあることからこの名がついた。



「アマドコロ」 北軽井沢ではごく普通の野草

キジカクシ科という分類群に属する。キジカクシ科は「アスパラガス科」とも呼ばれ、アスパラガスやスズランも、この科に属する植物である。実際、芽吹いたばかりのアマドコロは、アスパラガスによく似ている。このアマドコロ、なかなか探究心をそそられる、いくつかの面白い特徴を持っている。